



大滝川

## 大滝川左俣

一九八四年七月七日

入る前から滝はないだろうと考え  
ていたが、予想通り何もなしだつ  
た。

不動沢との合合から右岸の道を歩

く。道が沢を横切る所から入溪。支  
沢がいくつか入り、小滝もいくつか  
越えて進むと、やがて二俣。本流の  
左俣に入る。

## 長老沢

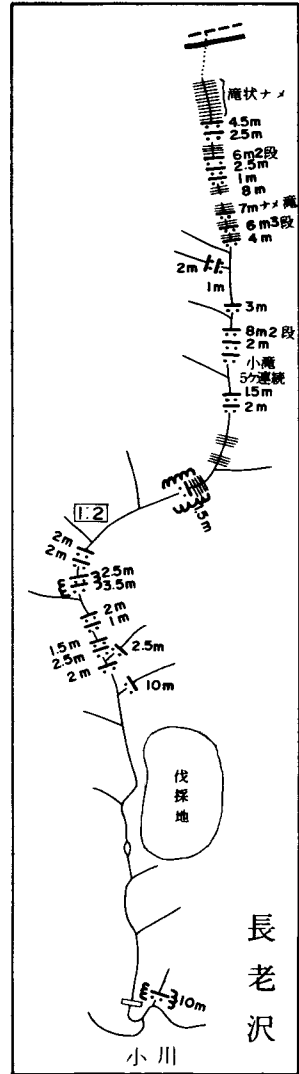
一九八二年五月二六日

中野第二トンネルを出ると、すぐ  
右側にドライブインがある。ここに  
車を止めて入溪。わらじを履いて小  
川を渡り、合合より遊行開始。左岸  
には、伐採用の道がある。  
歩き始めてすぐ砂防ダムがある。

左岸より越えると、そのあとしばら  
くは平坦で何もない。小沢が二本合  
流するあたりから、左岸には伐採地  
が続く。  
中洲を通ぎ、両岸がせまってくる  
ようになると、左岸に一〇分程の滝

ナメと三筋の小滝を越えると、あ  
とは何もない。水線に導かれてとに  
かくつめてゆくと、やがて水も濁れ、  
源頭に出てしまった。遊行終了一一  
時一〇分。(記)

「タイム」 遊開始(九:五〇)↓  
俣(一〇:三〇)↓終了(一一:一  
〇)



は滝状のナメと  
なつて、尾根近  
く、水のなくな  
るまで続く。  
一二時、ヤブ  
ごぎにはいる。  
一五分程で尾根  
に出た。

(記)

「タイム」 出合(八・四) ↓ 沢終了  
(一・二::〇〇) ↓ 尾根 (一・二::一五)

(水はあまりない)があり、そこからは本流にも滝が出てくるようになる。まず二筋の小滝の上に小沢が合流して二条滝のようにみえる二・五筋の滝。ここは滝の左を直登するが、右の方が楽である。その上の二つの小滝(一筋、二筋)は、私だけが直登して、二人は右岸を捲く。トイ状なので、内面登攀の要領にて登る。次の三・五筋は、右岸を登り、つづく小滝も軽く越える。右岸より小沢が合流した所で小休止。

しばらくは何もない所を歩く。やがて兩岸が岸壁となった一・五筋の小滝に続いて、いくつかの小さなナメを越えると、また滝が連続するようになる。まずは、いずれも一筋未満だが五個連続する。そして、二筋、八筋、三筋と次々とパスする。右岸より小沢が二本合流する。そしてその先も滝とナメが続く。途中、昼食。このあたりシドキ(モミジガサ)がたくさんある。  
水も少なくなってきた。沢も最後

